

全学向け日本語講座2004年度

季 澤 熊

全学向け日本語講座は、名古屋大学に在籍する留学生（大学院生、研究生など）、客員研究員、外国人教師などを対象に、日常生活や大学での研究生活に必要なとされる日本語運用能力の養成を目指して開講されている。

2004年度は、例年と同様、前期・後期に各12週間、さらに夏季休業期間中に12日間、春季休業期間中に17日間の集中講座を開講した。

1. 2004年度の概要

1) できるだけ多くの学生に、より良い学習環境を提供するために今年度から「Web 中上級」クラスを新たに設けた。これは、日程の都合で通常の授業に参加できない中級修了者（あるいは、中級を修了したが、上級のクラスは少し難しすぎると考えている者）が対象となる。前期と後期のみ開講。

2) 例年と同様、初級 以上を希望する受講者を対象にクラス分けテストを実施し、日本語能力レベルに応じたクラス編成をした。なお、今年度からはクラス分けテストの会場を2つ設け、上級レベルを希望する者については、別途にテストを実施している。

3) 各クラスにおいて、出席および成績の管理を行い、授業修了時に出席率および成績から合格者を発表し、合格者は次期進級する際クラス分けテストを免除している。再履修者についても同様である。ただし、上級 においての再履修者は定員を超える申し込みがあった場合、受講を制限することになっている。

4) 全学向け日本語講座は、基本的には単位取得をする授業ではないが、短期留学生の日本語プログラムの上級 については、本講座に組み込まれた形となっている。

5) 昨年度に引き続き、FD 活動の一環として学生によるコース評価をレベル・科目別に行った。

2. 期間と内容

前期全学向け日本語講座

開講期間：2004年4月15日 ~ 7月15日 12週間

開講クラスと内容：

1) 初級

『A Course in Modern Japanese, Revised edition Vol. 1』を主教材とし、他に適宜補助教材を使用した。週4コマのうち3コマは、文法・会話、残り1コマを文字の指導と読む練習にあてた。

2) 初級

『A Course in Modern Japanese, Revised edition Vol. 2』を主教材とし、「コミュニケーション活動」も取り入れながら、話す技能の強化を図った。週4コマのうち3コマは、文法・会話、残り1コマを漢字と読む練習にあてた。

3) 初中級

初級 で学んだ文法事項のうち重点項目を選んで復習し、それが実際に使えるように運用練習を行った。また中級レベルで必要となる漢字力、読解力を含め、日本語運用能力の基礎を固めることを目指した。使用教材は、初中級用市販教材などを参考にし、教師が作成した。授業は、週4コマ実施し、それぞれ会話・漢字・読解・文法練習にあてた。

4) 中級 a, b

a, b 各クラスとも技能別授業を以下の教材を使用して、各1コマずつ、計週4コマ行った。

- ・会話：『現代日本語コース中級 』会話練習
- ・聴解：『現代日本語コース中級 』聞く練習および『中級ワークシート中級 』
- ・読解：『現代日本語コース中級 』読む練習
- ・文法：『現代日本語コース中級 』文法および談話練習

5) 中級 a, b

a, b 各クラスとも技能別授業を以下の教材を使用して、各1コマずつ、計週4コマ行った。

- ・会話：『現代日本語コース中級 』会話練習

- ・聴解：『現代日本語コース中級』聞く練習および『中級ワークシート中級』
- ・読解：『現代日本語コース中級』読む練習
- ・文法：『現代日本語コース中級』文法および談話練習

6) 上級

大学での勉学に必要な口頭表現，文章表現の能力を養うことを目指した活動を行った。使用教材は，上級用市販教材，新聞，雑誌，テレビ番組などを使って教師が作成した。授業は週4コマ行った。内容は以下の通りである。

- ・読解：新聞や雑誌などから抜粋した生の文章を迅速，的確に読みとる技術。
- ・文章表現：小論文を書くために必要な技術。
- ・口頭表現：ゼミなどで発表したり，討論に参加するための技術。
- ・聴解：ニュース解説や講義などを聞き取る技術。

7) 上級

上級 修了または日本語能力試験1級程度の日本語能力を有する学生を対象に，大学での勉学に必要な口頭表現，文章表現の高度な能力を養うことを目指した活動を行った。使用教材は上級と同様，上級用市販教材，新聞，雑誌，テレビ番組などを使って教師が作成した。授業内容についても基本的に上級と同じであるが，ここでは，さらなるレベルアップを目指した活動を行った。

8) Web 中上級

読解，作文能力を高めることを目標にして，Web上で教材の提供・回答の添削等を行う。受講者は学内LANで，日本語入力可能なものに限る。登録者にはパスワードを発行し，毎週1回オフィスアワーを開設する。なお，プレイスメントテストは不要である。

後期全学向け日本語講座

開講期間：2004年10月18日～2005年1月28日 12週間

開講クラスと内容：前期と同様である。

夏季集中講座

開講期間：2004年7月26日～8月10日 12日間

開講クラスと内容：

開講レベルは，初級，初級，初中級（2クラス），

中級，中級（2クラス），上級，上級の7レベル・9クラスであった。今年度も，木浦大学から15名の参加があった。クラス配置は，初級 3名，初中級2名，中級 2名，中級 8名であった。

初級，初中級の使用教材，授業内容は前期と同じであった。中級，の教材は市販の『文化中級日本語』を使用した。上級では市販の『上級で学ぶ日本語』（研究社）と生教材を使って，口頭表現，文章表現の能力を養うことを目指した。また，上級では新聞，雑誌，テレビ番組などの生教材を用いて，総合的な運用能力の育成を目指した。

春季集中講座

開講期間：2005年2月14日～3月18日 17日間

開講クラスと内容：

開講レベルは，初級，初級（2クラス），初中級，中級（2クラス），中級（2クラス），上級，上級の7レベル・10クラスであった。使用教材，授業内容は夏季の授業に準ずる。

3. 受講生数

以下に2004年度の登録者数と修了者数の一覧を示す。以下からわかるように，登録者数と修了者数には大きな差が見られる。これにはいくつかの理由があげられる。まず，全学向け日本語講座は単位を取得する授業ではないため，本学に在籍している留学生なら誰でも簡単に受講でき，また自由にやめられる。そのため専門の授業以外の時間帯を利用して補習という感覚で参加している学生が多い。また，現在登録はインターネット登録となっているため，授業に参加できるかどうかわからなくても，登録が可能である。そのため，自分の専門の授業と重なったり，論文などで忙しくなったりして，実際には授業に参加できなくなった人も登録者数に含まれてしまう。専門の授業と時間帯が重なってしまい授業に参加できない学生については，時間割の検討，クラスの増設，授業科目の新設など様々な面で対策を考えている。

	前期		後期	
	登録者数	修了者数	登録者数	修了者数
初級	28	17	29	24
初級	27	15	28	16

初中級	31	18	26	16
中級 a	22	12	23	15
中級 b	22	10	24	19
中級 a	30	14	23	13
中級 b	30	17	24	14
上級	40	17	27	16
上級	36	14	19	9
Web 日本語	7	4	16	6
計	273	138	239	148

	夏季		春季	
	登録者数	修了者数	登録者数	修了者数
初級	20	14	22	13
初級 a	18	11	24	15
初級 b*			11	9
初中級 a	15	9	21	13
初中級 b*	14	11		
中級 a	16	10	17	11
中級 b	17	12	18	13
中級 a	14	7	10	5
中級 b	15	7	11	6
上級	20	15	17	10
上級	9	5	8	6
計	158	101	159	101

[注] *初級 bは、日本語研修生(6ヶ月)が継続して学習が行えるように設定したクラスである。日本語研究コースで既に学んだ初級の内容を復習できるようにシラバスが作られている。教鞭をとったのは、大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻の鷲見幸美助教授の指導を受けた同専攻の院生であった。また、初中級 bについては、夏季集中に初中級レベルに学生が集中したため、中級を1クラス減らし、初中級を2クラスにするという措置をとった。今後も、登録状況によってはクラス変更の可能性はある。

4. 学生によるコース評価と今後の課題

アンケートの実施

昨年度と同様に授業改善と教授能力の向上を図るために、前期と後期に受講者を対象に、コース内容に関するアンケートを実施した(授業時間、教材、授業内容などについて)。回答者数は前期と後期それぞれ186人と149人である。回答の内容は全般的に良好な評価結果が得られたが、「授業時間数をもっと増やしてほしい」「自分の専門の授業と重ならないように時間割

を組んでほしい(工夫してほしい)」「自分の専門分野と関係のある授業項目も取り入れてほしい」などと、昨年とほぼ同様の要望があった。

今後の課題(日本語教育プログラムの改善・拡充)

以上のアンケート結果を受けて、来年度からはさらにプログラムを改善・拡充することにした。大きな変更点は以下の通りである。

1) 全学向け日本語講座のクラス数・時間数が増える。

・集中コース・標準コース

短期留学生を含む全学の外国人留学生、研究者、教員を対象としたコースで、学習者のレベルや希望に合わせて「集中コース」(週20時間12週、4レベル)と「標準コース」(週10時間12週、8レベル)のいずれかを選択できる。

2) 授業に出られない学生のためにオンライン授業を提供する。

・オンライン日本語コース

日本語の授業に出席することが時間の関係などで難しい留学生のために、Web上で教材を配布し、学習者からの解答に対しフィードバックを返すというものである。今年度から開講しているWeb日本語をさらに拡充したものである。

3) 学習者のニーズに合わせたアラカルト授業を新たに設ける。

・漢字コース

なかなか一人では勉強が進まない、ついくじけてしまいそうになる漢字学習を少しでも支援するのが目的である。初級・中級といったレベルに関わらず、誰でも受講することができる。漢字100字、300字、1000字の3レベルを設ける。

・入門講義

日本文化論、国際関係論、言語学など専門分野をやさしく解説する入門講義形式で授業を行い、日本語運用能力を高め、日本を理解するのを助ける。講義はすべて日本語で行っているため、日本語能力試験2級程度の日本語力を備えていることが条件となる。